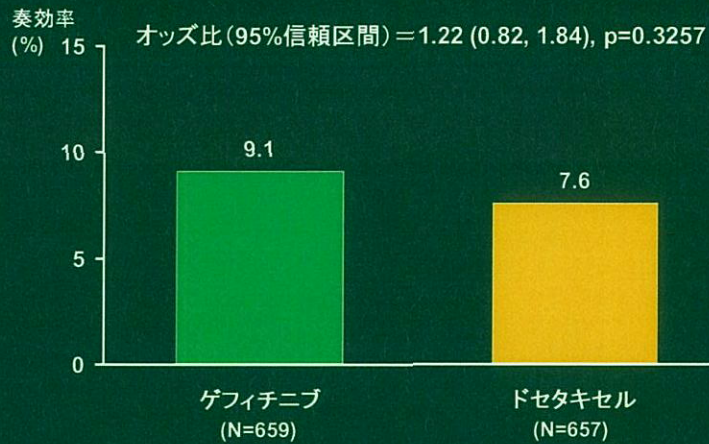


## 抗腫瘍効果 (RECIST<sup>a</sup> 規準による) (抗腫瘍効果評価対象症例)



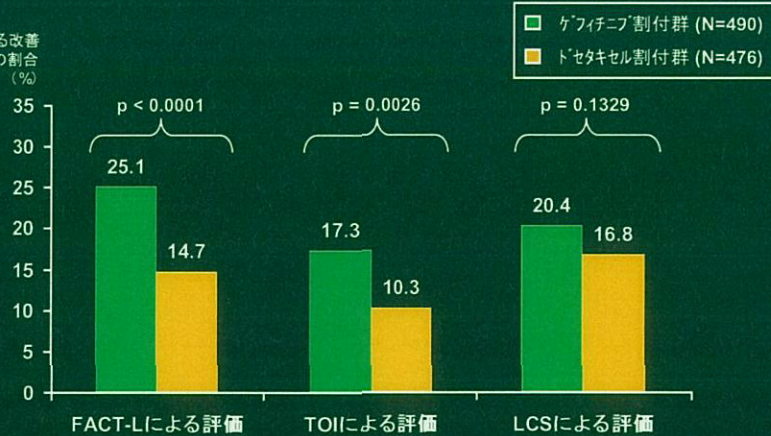
- ・抗腫瘍効果は、主治医による腫瘍病変の測定結果から自動的に算出。
- ・オッズ比が1を超えている場合、ゲフィチニブにおいて奏効する確率がより高いことが示唆される。
- ・オッズ比及びp値は、共変量について調整したロジスティック回帰分析による。

<sup>a</sup> RECIST: Response Evaluation Criteria in Solid Tumors (固形がんの効果判定規準)

51

## QOL及び随伴症状改善率 (QOL評価対象症例)

臨床的に意義のある改善  
が認められた症例の割合  
(%)



- ・P値は共変量について調整したロジスティック回帰分析による。
- ・「臨床的に意義のある改善」とは、FACT-L及びTOIによる評価では6ポイントの改善、LCSによる評価では2ポイントの改善が、21日以上継続していた場合と定義されている。
- ・FACT-L: Functional Assessment of Cancer Therapy-Lung, TOI: Trial Outcome Index, LCS: 肺癌サブスケール

52